

日本放射線影響学会第39回大会を 開催するに際して

日本放射線影響学会第39回大会を平成8年11月18日～20日の3日間、大阪府豊中市にあります千里ライフサイエンスセンターを会場として開催することになりました。本学会が大阪で開かれるのは3回目であり、大変光栄に存じています。本学会は、発足以来37年、放射線の人体と環境に与える影響、及びこれに関連する諸科学の進歩に寄与する目的で放射線（能）の生物、生態系、環境、人体への影響を解析、研究する学会であります。更にこれらは放射線を利用した分子放射線生物学、細胞、組織、個体の放射線生物学、放射線治療生物学と基礎から臨床までの研究から、トリチウム、放射能物質、Fall outを含む環境放射線の分析法、線量測定の発癌および環境放射線によるリスク評価、臨床的には種々の放射線（中性子、重粒子線）による癌治療と幅広い学際的な研究であります。従って本学会は、医学分野の研究者ばかりではなく環境放射線、放射線発癌の生物学者、重粒子線の加速装置の理工学関係の研究者等約1000名の参加が予定される学会です。

本年はベクレルによる放射能発見から100年目に当たり、 Chernobyl事故から10年目でもあります。それらにちなんで、記念公開特別講演、5名の外国人招待講演、4つのシンポジウム、5つのワークショップを予定しており、更に一般講演として、約300演題を5会場で行います。

これらに興味をお持ちの方に多数御参加頂き、本大会が稔り多い有意義な大会になることを切に希望いたします。

会長 田 中 敬 正
(関西医科大学放射線科学教室 教授)